



2024

高岡万葉セミナー

「万葉集と池田弥三郎」

令和6年9月7日(土) 13時～16時25分

高岡市万葉歴史館・講義室

開催中



- 多くの新発見資料で池田弥三郎の人と功績を紹介 -
秋の特別企画展「池田弥三郎の世界」
令和6年9月4日(水)～12月2日(月)

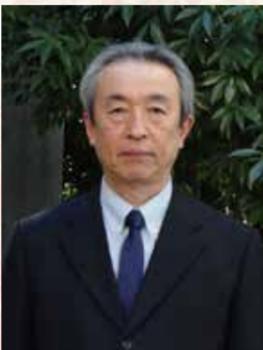
●第1講 13:10～14:40



「池田弥三郎と万葉集」 池田三枝子氏 (実践女子大学教授)

『萬葉百歌』(中公新書)は山本健吉・池田弥三郎の共著で昭和38年に出版された万葉集の入門書である。万葉集の中から百首を選出して、年代順に並べ、まず池田が解釈を書き、続けて山本が書くという体裁を取っている。慶応義塾大学で折口信夫の指導を受けた二人が「師説から出発して、萬葉集について自由な考えを出してみよう」というところから出発したこの秀歌選を端緒として、池田弥三郎の万葉集理解について考えてみたい。

●第2講 14:55～16:25



「池田彌三郎と万葉集—その非凡な人生のなかの万葉集—」藤原茂樹館長

来む世には我も銀座に人となり貴殿のような世を送りたし (金田一春彦作)

生前池田に金田一から贈られた短歌である。池田は周囲のだれをも楽しい気分と敬いの心とを与えてくれる人だった。池田没後42年経過し、池田著の多くのベストセラーにこめられた知性は、いまもって書店の棚から心ある読者に向けられている。その活躍は40歳ころから亡くなるまでの27年間に自著80冊を出版したことに一端があらわれている。銀座育ちの勤勉律儀をもととする魅力あふれる多才は、「器用貧乏人宝」といわれ(好意的に)もしたが、昭和を代表する国文学者として華々しくもまぎれることのない生涯を送った。軍隊時代の6年間を除いて昭和9年からその師折口信夫の無くなる28年まで、慶應義塾大学における折口万葉集講義を聞き記録し続けて修練した知識をその生涯に、どのように表してきただろうか。この講演では池田の一生を、少年時代、青年時代、軍隊時代、有名人・学徒として、富山時代と順を追って示す。

未公開の池田家資料を用いるなどして、無双非凡な生涯の知られざる一面を見、領域の広い研究者として成功をおさめた中でも、特にその一生と万葉集との深いつながりを明らかにする。富山に住み、大伴家持を最も好きな歌人と公言する池田自筆の「魚津だより・立山賦」メモ(新発見)などを示しつつ、亡くなる二十日ほど前まで練り続けていた文学伝承論の構想と万葉集とのかかわりについてもふれてみる。

「風のように北陸にやって来て、風のように去って行ってしまった。(略)北陸に幸を運んでくれた「風の弥三郎」(『池田彌三郎北陸を語る』吉崎四郎言)と懐かしがられた池田の人生の中にあつた万葉のありかたを振り返る。

●受講料 2000円(学生1000円)

●定員 先着120名

●申し込み方法

「高岡万葉セミナー受講希望」と書き、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記載のうえ、ハガキ・電話・FAX・E-mailなどでお申込み下さい。高岡万葉歴史館受付でもお申込みできます。

受講料は、当日受付でお支払いください(おつりのないようご注意ください)。

※受講確認のハガキはお送りしません。

※内容など変更がある場合がございます。ホームページ等でご確認ください。

交通のご案内

◆最寄り駅 JR氷見線 伏木駅から

【当館までの距離約1.5km】徒歩約25分

◆JR・あいの風とやま鉄道 高岡駅から

【バス】高岡駅前(北口)のりば④

加越能バス伏木方面(西回り)・伏木方面(東回り)のいずれかに乗車(約30分)して「伏木の宮バス停」で下車、徒歩約7分

【タクシー】約20分

※「北陸新幹線新高岡駅」と「JR・あいの風とやま鉄道高岡駅」の間は、JR城端線またはバス便があります(所要時間約10分)

◆お車で

【能越自動車道】高岡北インターから約20分、高岡インターから約25分

【北陸自動車道】小杉インターから約35分、高岡砺波スマートインターから約35分

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮1-11-11 TEL: 0766-44-5511 FAX: 0766-44-7335

○開館時間 午前9時～午後6時(11・12月は午後5時閉館) ※入館は閉館の45分前まで
火曜日休館

○観覧料 一般: 300円 中学生以下: 無料 65歳以上: 240円 団体(20名以上): 240円



高岡市万葉歴史館